

ご意見(要約)【委員】	対応【事務局】
<p>1</p> <p>①朝食を欠食している小中学生の家庭の実態について踏み込んだ調査をするべきである。</p> <p>②朝食を欠食している家庭の状況に寄り添いながら、朝食の大切さを学校や行政から伝えていくことを強化すべきである。啓発にあたっては、マスコミやSNSの活用、栄養関係の学生や専門家などの協力を得て実施すべきである。</p> <p>③子ども時代の食育を重視し、学校への栄養教諭配置数を増やすべきである。</p>	<p>①</p>
	<p>小中学生の朝食欠食については、経済的な理由による家庭も存在することから、家庭の実態に対する踏み込んだ調査を行うのではなく、今後も児童生徒への個別指導や保護者へのアプローチにあたって、個人情報保護に十分配慮し、学級担任や栄養教諭だけでなく、必要に応じてスクールソーシャルワーカー等とも連携し、個に応じた対応等に努めていく。</p>
	<p>②</p>
	<p>SNSを活用した啓発として、各種SNSにて野菜摂取、減塩等をテーマとした料理動画を配信している。</p> <p>また、栄養関係の学生の協力を得た啓発として、管理栄養士養成校の学生が作成した画像等をInstagramにて配信しているほか、朝食の欠食など、様々な食の課題に関して栄養士養成校の学生等がアナウンスをした音声も地下鉄構内で放送している。</p> <p>今後も引き続き、効果的な啓発を実施していく。</p>
	<p>学校では、栄養教諭を中心に小中学校9年間を通じた食に関する指導を行っている。</p> <p>給食時間や各教科の授業において、学級担任等と連携して子ども達に食事の重要性や栄養バランスについて教える中で、朝食を食べることの大切さについても指導を行っており、引き続きその充実に努めていく。</p>
<p>③</p>	
<p>栄養教諭の配置については、義務標準法に基づき配当される定数を適切に配分するとともに、教職員定数の充実について国に引き続き要望していく。</p>	
<p>福岡市では、食育に関する学校間の格差を解消し、さらなる充実を図るため、令和2年4月から「栄養教諭による担当小中学校への週1回訪問による小中9年間を通じた食育の推進」をすべての学校で実施している。</p>	
<p>2</p> <p>市民の食育の知識・関心・実践等に関しては全体的に、全国平均より高く望ましい傾向にあるが、朝食摂取状況や減塩実施率など個別の目標で見ると、達成できていないものや全国と比較して低いものもある。</p> <p>食に関心のない人も含む多くの一般市民が「自然に健康になれる持続可能な食環境づくり」に取り組んでほしい。</p>	<p>家庭、地域・関係団体、行政において福岡市食育推進計画を推進するにあたり、同計画の具体的な目標値②③④⑩⑮における今後の施策の参考とさせていただきます。</p>